

授業概要

現代の国際社会を考えるうえで、異文化接触や多民族共生の問題は重要であると同時に、現在それが危機にさらされている。本講座では、前半で異文化コミュニケーション論の基礎知識を学び、後半でその実例として、ユーラシアに存在した前近代の世界帝国や近代の多民族国家の歴史、さらには多国家統合の過程を紐解きながら、様々な出自を持つ人々の共存のあり方について講義する。授業を通し、人間尊重の立場から人々が直面する諸問題を解説する。

授業計画

| | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 導入 |
| 第2回 | 異文化コミュニケーションの諸概念1（文化とは何か） |
| 第3回 | 異文化コミュニケーションの諸概念2（言語） |
| 第4回 | 異文化コミュニケーションの諸概念3（宗教と民族） |
| 第5回 | 異文化コミュニケーションの諸概念4（国民主義） |
| 第6回 | 異文化コミュニケーションの諸概念5（異文化摩擦と教育） |
| 第7回 | オスマン帝国1（帝国の成立と発展） |
| 第8回 | オスマン帝国2（帝国の完成と西欧の衝撃） |
| 第9回 | オスマン帝国3（帝国の解体からトルコ民族の国家へ） |
| 第10回 | ロシアとソ連邦1（キリスト教帝国の拡大） |
| 第11回 | ロシアとソ連邦2（世界帝国と革命運動） |
| 第12回 | ロシアとソ連邦3（社会主義と民族問題） |
| 第13回 | ロシアとソ連邦4（ソ連邦の解体） |
| 第14回 | ヨーロッパ統合1（その成立） |
| 第15回 | ヨーロッパ統合2（その拡大と変質） |
| 第16回 | 試験 |

到達目標

歴史上には広大な地域と多種多様な人間集団を支配した国家がある。こうした国家はどのようにして人々を共存させたのか、あるいはなぜそれがうまくいかなかったのかを学ぶことで、世界の文化、思想、歴史などに関する専門的知識を修得し、ますます国際化していく日本社会に貢献するための指針を見いだすことができる。

履修上の注意

基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、特に後半の事例解説は、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安を感じる受講希望者は、履修するまでに教科書などでイスラーム史とロシア史、第二次大戦後のヨーロッパの箇所を復習しておくこと。

予習・復習

プリントを配布するので、授業で扱った異文化コミュニケーション論上の概念や歴史用語については、参考書などを活用してしっかり復習すること。

評価方法

学期末試験（90%）および授業での貢献度（10%）で総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。授業中に参考図書のリストを配布する。